資料３

平成 24 年度　第１回　早池峰山山頂避難小屋あり方検討部会

日時　平成 24 年 11 月 6 日（水）13 時 30 分～
場所　県庁 4-2　特別会議室

次　　第

１　開　　会

２　挨　　拶

３　議　　題

(1) 平成 24 年度携帯トイレ使ってみでけＤＡＹ（デー）の実施結果について

(2) 早池峰山山頂避難小屋の今後のあり方について

(3) その他

４　閉　　会

平成24年度　早池峰山山頂避難小屋あり方検討部会　委員及び出席者名簿

平成24年11月6日（火）13:30～15：00
県庁4-2　特別会議室

区　分	所　属　・　職	氏　名	摘　要
山岳関係団体	岩手県山岳協会参与	浅沼　昭男	出
	岩手県勤労者山岳連盟副理事長	七木田　光宏	出
自然保護関係団体	早池峰フォーラム実行委員会会長	中嶋　敬治	出
	早池峰をきれいにする会会長	藤原　二三男	出
	早池峰の未来を考える女性の会	上平　玲子	出　永田京子 曽山久美子
管 理 員	自然公園保護管理員	柳田　千恵喜	出
	自然公園指導員	浅沼　利一郎	出
ボランティア団体	早池峰にゴミは似合わない実行委員会代表	菅沼　賢治	出
市 町 村	花巻市生活環境部生活環境課長	晴山　弘之	出　阿部邦彦
	遠野市環境整備部環境課長	佐々木　修	出　菊池克友
	宮古市川井総合事務所産業振興課長	佐々木　均	代理:松草寒三
岩 手 県	県南広域振興局保健福祉環境部長	奥寺　高秋	出 立花一 加藤研史
	環境生活部自然保護課自然公園担当課長	矢内　泉	出 上山敦稔

資料No.１

平成 24 年度 携帯トイレ使ってみでけＤＡＹ（デー）の実施結果について

１　実施期間等

昨年度の部会決定に基づき、次の日程で実施した。

平成 24 年 6 月 10 日（日）から 10 月 8 日（月）まで　　計 121 日間

２　実施概要

(1)　携帯トイレブースの設置

当該期間中、山頂避難小屋の汲取り式トイレを携帯トイレブースに変更し、携帯トイレブース３室体制にて実施。

※更に、混雑時に備えて増設ブース用として簡易テントを用意。

(2)　携帯トイレ回収ボックスの設置

岳駐車場、岳さわやかトイレ、河原の坊登山口、小田越登山口

（小田越登山口については、回収ボックス追加設置）

(3)　その他

早池峰キャンペーン実施日においては、キャンペーン対応者の協力により、携帯トイレ普及活動及びマナー指導等を行った。

３　周知・広報

(1)　県ホームページ掲載

(2)　取組に係るチラシ配布（288 箇所）

（全国旅行会社、登山用品店、山岳関係団体、各都道府県、県内市町村等）

(3)　取組みの周知依頼

（環境省、各都道府県、県政記者クラブ、都道府県記者クラブ、山岳関係団体、山岳関係誌発行社等）

(4)　早池峰地域でのお知らせチラシ掲示

（岳駐車場、河原の坊総合休憩所、小田越監視員詰所、うすゆき山荘、小田越山荘、山頂避難小屋、峰南荘 ほか）

早池峰では携帯トイレの普及を推進しています

早池峰山 携帯トイレ使ってみでけDAY（デー）実施のお知らせ

《 実　施　期　間 》

平成２４年６月１０日（日）～１０月８日（月）

上記期間、山頂トイレブースでは、携帯トイレのみお使いになれます。

- 携帯トイレを持参しましょう。
- ふもとのトイレで用を済ませてから登山しましょう。
  ～ 早池峰山登山は、往復６時間前後です ～
- 登山口に使用済み携帯トイレの回収ボックスを設置しています。
  ～ 使用済み携帯トイレは家庭ゴミとして処分できます。
  できるだけ、ゴミと一緒にお持ち帰りくださるようお願いします。～

早池峰の自然環境を守るための取り組みです。
登山者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

携帯トイレは、早池峰総合休憩所・監視員詰所・山頂避難小屋でもお買い求めいただけます。（注：無人販売方式　￥３５０）

岩手県環境生活部自然保護課

携帯トイレ等に関するアンケート集計

記述式意見等

○　回収 BOX の状況は常駐している保護管理員が業務の一環としてチェックし、状況を業者（峰南荘）に連絡すべきだと思います。

○　自然保護指導員・自然公園保護管理員から、「携帯トイレデー」が展開されるようになって以来、早池峰山に排せつ物が散乱し、悪臭がひどくなっているという報告が来ています。貴重な高山植物の宝庫であり、全国から多くの登山者が訪れる早池峰山がこのような状況では非常に残念です。このようなことから、山頂避難小屋のトイレは携帯トイレだけとせず、一般のトイレと併用し、し尿の汲み取りについては県の予算で実施するべきと考えます。

○　10 月に入ってから登山道の目につくところに大便をしてあるのが何回かあった。人の目がなくなったからだと思うが、残念な行動である。その他の期間でもだいたい決まった場所だが、見つかることがあった。マナーの低下が著しい。

○　関係機関やボランティアの皆さんの尽力により、良好に運用されていると感じます。

○　早池峰バージョンの携帯トイレが好評だった。

○　持参するのを忘れたときに、自動販売ボックスから買ってみたが何も不便なことがなかったので、この販売方法で良いと確信できた。

○　早池峰キャンペーンの際、啓発・説明等にあたったが「知らなかった」という登山客からも特段の苦情はなく、理解は得られているものと思われる。

○　携帯トイレに係る周知が足りない、看板等を含め、ＰＲをもっと積極的に行う必要がある。

○　男性用ボトルの場合、下山中に中身だけを登山道周辺に捨てている人がいたという目撃情報がある。携帯トイレを使っても、途中で捨てられたら結果として自然環境が悪化するので、登山者の気持ちを考慮した回収方法について検討する必要がある。

○　小田越の仮設トイレを山開きから３ヶ月間設置しているところ、９月以降にも需要があることから設置期間の延長を検討する必要がある。

○　携帯トイレ専用を目指すには麓（登山口）のトイレの充実が不可欠である。仮設トイレは、早池峰の景観を損ねるという声もあり、小田越管理員詰所のトイレ改修を行うべき。

○　既存のトイレを含め、山頂のトイレの維持管理は誰が主体となって対応するべきなのか、はっきりさせておく必要がありそうです。

○　山頂に集中するのでなく途中にも設置してほしい。

○　携帯専用にしたことで、臭いもなくなりハエの発生も少なくなった

○　トイレ特有のにおいがなく清潔感がある。（女性利用者）

○　閉鎖して携帯トイレ専用になってからトイレ周辺のにおいが無くなりハエが大幅に少なくなった。（山頂で食事中の登山者から）

○　携帯トイレについて、直接苦情を言われることはあまりないようであるが、こちらから問いかけると、否定的な意見が返ってくることが多いようだ。
○　携帯トイレを使用した人は、清潔で気持ちがいい、リュックサックに入れて登山口まで降ろすのも気にならないと好評だった。しかし、普及を進める側としては、携帯トイレ使用の趣旨を理解していただき、協力をお願いするという姿勢を忘れてはならないと思う。
○　ずっと携帯トイレ専用でよいという声は多く聞かれました。
○　インタビューした登山家はほとんど否定的、バイオトイレの推進意見が多い。
○　汲み取り式トイレの汲み取り費用の予算計上が必要。
○　携帯トイレよりも有料でもいいから普通のトイレを使いたいという意見が複数あった。
○　なぜ早池峰だけが携帯トイレなんですか県内のトイレが立派にあるのに。

○　携帯トイレブースを増設して従来のトイレにフタをしないでください。

平成 24 年度　第 1 回　早池峰山山頂避難小屋あり方検討部会　議事録

日時：平成 24 年 11 月 6 日（水）13 時 30 分～16：00

場所：県庁 4-2　特別会議室

部会長：あいさつ　（省略）

次第に従って進めていきます。携帯トイレつかってみてけ DAY の結果について事務局より説明願います。

事務局：資料の確認及び携帯トイレつかってみてけ DAY の結果報告。

部会長：事務局から説明ありましたが、何か質問・意見ありますか。

（特に無しとの声有。）

では、「早池峰を携帯トイレだけの山にする運動」の廃止撤廃を求める要望書がだされていますので、まずはこの要望書について説明願いたいと思います。

柳田委員：携帯トイレ推進運動によって山頂周辺のゴミの散乱がひどい状況。原因は携帯トイレ推進により、山頂トイレを閉鎖したことにあると思う。管理員や指導員の意見が要約されている要望書を見て、議論をしてほしい。

携帯トイレを撤廃する話ではなく、山頂のトイレも開放し、併用方式でやっていきたい。問題となるのはトイレの維持・管理であるがボランティアにはお願いできないので、予算をとって事業化してほしい。

部会長：後程、議論の対象にはするが、まずこれに関して質問はありますか。

上平委員：H24 が惨憺たる状況とありますが、H23 と H24 の「キジ撃ち」等の実際の数は分かりますか？

柳田委員：具体的な数は分からない。

部会長：私の方から意見というか利尻岳の現況について、携帯トイレ使用小屋の周りはティッシュの残骸だらけとの話が要望書にあるが、全国の山を登山されている浅沼委員に利尻岳の現況についてお聞きしたいのですが。

浅沼委員：利尻は、次までの所用時間等の表示があり携帯トイレブースを設置している。やはり携帯トイレ推進には、携帯トイレを使える環境の整備が必要である。

部会長：ということはそのような状況はなかったということですね。

浅沼委員：そうです。

部会長：稚内の自然保護官事務所に利尻岳の状況について聞いてみたが、ティッシュの残骸がある等の苦情は寄せられてなかったようです。

上平委員：携帯トイレの回収はどれくらいですか。

部会長：県南局で分かりますか。

県南局：小田越えで 547 個、河原の坊で 58 個、ホウナン荘で 6 個、岳駐車場で 16 個となっています。

部会長：これからの議論についてですが、平成 22 年３月でまとめられた「早池峰山山頂避難小屋のあり方について」でまとめられたことを議論のベースとしていきたいと思いますが、よろしいですか。何か意見等ありますか。

各委員：(特に無しとの声有。)

部会長：ないようですので、「早池峰山山頂避難小屋のあり方について」をベースに議論していきます。この中で携帯トイレについてのアンケートを行っております。アンケートでは８割超の人が携帯トイレを使用しても良いと回答しています。アンケート結果からも分かるように携帯トイレの推進については理解が得られてきていると思いますし、論点としては屋外での排泄が問題となると思います。

屋外での排泄を１つの論点として良いですか。

中島委員：要望書について１つ質問したいことがあるが、良いですか。要望理由②の文言を見ていくと県が行ったアンケートは意味がないものという風に捉えられる。この記載についてはっきりさせたいと思いますが。

部会長：中島委員から意見がでましたが、これについて何か意見ありますか。例えば、何人くらいに聞いてみたとか…。

柳田委員：人数については分かりません。

藤原委員：実際に登山者に意見を聞くと、否定的な意見も出てくる。県のアンケートを否定するわけではなく、そういう意見もあるということで考えていただきたい。

浅沼利委員：平成 23 年の部会のときに我々が携帯トイレ設置期間が長いと意見したが、結局実施された経緯がある。それがこういった惨憺たる状況となっている。山頂にハエが多いとか。これは大きな問題です。私は 50 年間山に登っているが、今が一番ひどい。山頂トイレを開放し、携帯トイレとの併用方式にすべきである。今年の１年は併用にすべき。

上平委員：携帯トイレによるゴミの発生増加については気になっておりますが、仮設のトイレの汲み取りの状況はどうですか。

部会長：県南局の方で何かデータありますか。

県南局：洗浄水も含まれますが、H24 の汲取り量は 4,680ℓ、H23 は 2,520ℓ、H22、2,670ℓとなっています。

各委員：H24 多いですね。

上平委員：頂上付近の排泄については、携帯トイレの問題ではない。マナーの問題なのではないですか。

部会長：山岳連盟の方は、携帯トイレについて何か意見有りますか。

七木田委員：連盟に加入している登山者は携帯トイレを用意して山に登っております。

浅沼昭委員：排泄について考えるなら、高山植物に対する影響も考えるべき。特に早池峰山は希少な高山植物が多くあるので。

菅沼委員：先程浅沼（利）委員から山頂のハエが多いという意見がでましたが、排泄物の問題よりカップ面のつゆを捨てる人が多く、それがハエを呼んでいるんだと思います。

藤原委員：マナーの問題というかトイレを解放すれば解決する問題だと考えています。

部会長：皆さん、色々と排泄物について意見を言っていただいていますが。１つ確認したいことがあるんですが、山頂のトイレを開放すればキジ撃ち等は減るんですかね。

要望書の早池峰「携帯トイレデー」による惨憺たる実情写真一覧（撮影日と場所が記載されたもの）を見ると、平成 23 年では、トイレが開放されていても、閉鎖されていても、「キジ撃ち」の写真があり、山頂トイレの開放とキジ撃ちは関係がないようにも見えるのですが。

浅沼利委員：私がガイドをするときにまず聞かれることは山頂にトイレはあるか、ということです。10 月 9 日の山頂トイレが開放されてからは、山頂にトイレがありますと言えるんです。そういうと登山者の方は凄く安心するんです。

菅沼委員：浅沼委員から登山者の対応について話を頂いたが、我々はこの部会の委員の皆さんとの意見交換の中で携帯トイレを推進する方向で話が進んでいるはずです。早池峰山は携帯トイレの山にする、そういった思いも委員の皆さんが、登山者に説明していくべきではないでしょうか。

部会長：屋久島や他の地域でも携帯トイレ推進の動きがあり、今は携帯トイレをもって登山するのが当たり前のようになってきています。

中島委員：2 月に京都で開催された自然地域トイレし尿処理技術セミナーに出席してきた。エネルギーが供給できない山岳地でのし尿処理は難しい。早池峰の携帯トイレの有効性も紹介されており要望書との認識とは大分違う。議論すべきことは携帯トイレ推進の話ではなく、野外に排泄する問題をどうするかというところかと。

浅沼利委員：私は携帯トイレを辞めるべきだといっているのではなく、早池峰の希少な高山植物のためにも山頂のトイレも開放し、併用方式にすべきだと言ってるんです。

部会長：併用方式にすると誰かが、担ぎ下ろしをしなければならないが、要望書をだした方々は、し尿の処理についてはどのようにお考えですか。

柳田委員：ボランティアの方々にお願いするのは無理な状況ですから、県の方で予算をつけていただいて、事業化すべきだと思います。

部会長：事務局から何かありますか。

事務局：担ぎ降ろしの県の予算は、御存じのとおり、すぐ措置できるものではありません。もう、来年度の予算要求については、間に合いませんが、皆さんが是非必要だと

なれば、予算要求をすることとなりますが、難しいと思います。ですから、こうして検討しているのだと思いますが、予算が付くまでの間は、閉鎖しておくということでよろしいわけですか。

上平委員：私の意見としては、早池峰を後世に残る山にしたいという思いは一緒だと思っています。ただ携帯トイレだけの山にするということに意見の食い違いがあるのだと思います。

浅沼利委員：もっと携帯トイレについて周知をして、みんなが携帯トイレについての認識が深まってから、携帯トイレ専用の山にすれば良い。

部会長：今、浅沼委員から「みんな」という意見がでましたが、「みんな」とは具体的にどういった意味でしょうか。

浅沼利委員：登山者の方々という意味です。

部会長：アンケートでは８割以上の方が携帯トイレの利用に賛同いただいている状況なのですが。その「みんな」をどういう方法で、何人ぐらいをもって「みんな」と判断すれば良いのか、お聞きしたいのですが。

中島委員：みんなとは当然、登山者も含まれるが、現場の管理員・指導員の役割も大きいと思う。管理員や指導員といった現場で登山者を指導する人が、携帯トイレについて理解をし、携帯トイレの推進をしていかなければ携帯トイレの推進は、難しいと思う。

（管理員がもっと積極的に関わっていればもっとちがう状況になっていたかも知れないと思います。）

菅沼委員：私が１つ確認したいのは、要望書をだした人達は、し尿処理の方法は、県の予算をあてにしていますが。先程も話にあったように県の予算は厳しい状況の中で、詳細な担ぎ下ろしの方法について示してもらいたい。

柳田委員：現在はボランティアが担ぎ下ろしを行っているので、県の予算もついていない。ボランティアが担ぎ下ろしをしなければ、誰かがやらねばならないので、県も予算をつけざるを得ない。その辺りも考慮し、要望書を出した。

来年の担ぎ降ろしのボランティアの予定は、ないのでしょうか。

菅沼委員：担ぎ降ろしのボランティアについては、来年 5 月の担ぎ降ろしで最後にしたいと考えています。

部会長：皆さんから色々と御意見を伺ったが、行政側から何か意見はありませんか。

奥寺委員：今回の要望書は、現場の意見として、非常にありがたいものだと思っている。ただ議論すべき論点はどうやって「キジ撃ち」等のマナー違反を指導していくかだと思う。

晴山委員：難しい問題と認識している。早池峰の貴重な自然を後世に残していくために、どのような仕組みづくりが必要か考えていく必要がある。

佐々木委員：基本的には、花巻市の晴山委員と同じ意見です。

松草委員：宮古市課長佐々木委員の代理で参加したのですが、意見を述べたいと思います。
宮古市にも管理員さんが来て、早池峰山の現況についての意見を伺った。やはり重要な問題であると認識している。予算をつけて担ぎ下ろしをおこなっていくことが必要であると思っている。

部会長：予算が付くまではどうしたら良いと思いますか。

松草委員：その問いは閉鎖することもやむを得ないと思います。

部会長：皆さん、色々と意見をだしていただいて約２時間ほど経過しましたが、時間も限られている中で、今後のことを話したいと思います。少し休憩をとって再度、議論をしてある程度の結論までもっていくか、それとも一度閉会し、再度、日を改めて皆さんに集まってもらい議論をするか。

委　員：（日を改める声有。）

部会長：では日を改めたいと思います。
次回は 12 月の開催を予定としてよろしいですか。

各委員：（異議無しとの声有。）

部会長：それでは、次の開催は 12 月中とし、「野外での排泄についての問題」それらをふまえ「来年度の取組」をどうするか、そういった論点を明確にし、事務局から事前に資料を配布したいと思います。